

看 護 学 科
(2022年度以降入学生)

Ⅱ 看護学科 (2022 年度以降入学生)

履修規程

(総 則)

第1条 本学学則第13条第3項の規定に基づき、保健医療学部看護学科（以下「本学科」）の教育課程及び授業科目の履修については、この規程の定めるところによる。

(卒業資格)

第2条 本学科を卒業するためには、4年以上在学し、132単位以上を修得しなければならない。

- 2 看護師・保健師課程選択を選択した場合は、146単位以上を修得しなければならない。
- 3 看護師・助産師課程選択を選択した場合は、153単位以上を修得しなければならない。

(授業科目の区分)

第3条 授業科目は、これを共通教育科目、専門基礎科目及び専門科目に区分する。

- 2 共通教育科目は、これを基礎教養科目、共生教養科目、奈良・国際科目、情報教養科目、キャリア形成科目、及び導入基礎科目に区分する。
- 3 専門基礎科目は、これを人間の理解、環境の理解、健康の理解に区分する。
- 4 専門教育科目は、これを看護の考え方と方法、看護学の総合と発展、公衆衛生看護学、及び助産学に区分する。

(授業科目の履修)

第4条 本学科授業科目表の各授業科目のうちから、次の各号の科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。

- | | |
|------------------------|---------|
| (1) 共通教育科目 | 25 単位以上 |
| (2) 専門基礎科目 | 28 単位以上 |
| (3) 専門科目 | 71 単位以上 |
| (4) 専門基礎科目および専門科目の選択科目 | 8 単位以上 |

(単 位)

第5条 各授業科目の単位数は、45 時間の学修を必要とする内容をもって1単位とする。

2 各授業科目については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、導入基礎科目、外国語科目及びスポーツ関連科目のうち実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

(配当年次)

第6条 各授業科目に、それぞれ配当年次を指定するものとし、その指定された年次以降において履修することができる。

(授業科目の履修制限)

第7条 授業科目については、原則として、年間 48 単位を超えて履修することができない。

(履修登録)

第8条 履修登録は、各学期初めに年2回行わなければならない。

(履修登録の制限)

第9条 授業科目の教員、教室等の都合により、履修登録者の人数、資格等について制限を設けることがある。

2 同時限に開講される授業科目は、1科目しか登録することができない。

(再登録)

第10条 単位を修得した授業科目は、再登録をすることができない。

2 単位を修得することができなかった授業科目は、第7条に定める履修制限内において再登録をすることができる。

(履修登録の変更)

第11条 履修登録は、正当な理由がなければ、変更、追加または取り消しをすることができない。

2 学部長が、特に認める場合は、前項の規定を適用しない。

(授業科目の開講)

第12条 授業科目は、教員、履修者等の都合により、毎年度開講されない場合がある。

(授業の組分け)

第13条 履修登録者数が多数に上る授業科目は、適宜組分けを行い、時限を定めることがある。

(単位の認定)

第14条 担当教員は、授業科目を履修した学生に対し、試験、論文、研究報告等（以下「試験等」という）、または平素の履修状況（学習態度等）により学修の成果を評価して単位を与える。

2 各授業への出席が授業時間の3分の2（実習においては5分の4）に満たない場合は再履修とする。

(単位認定を受ける資格)

第15条 次の各号のいずれかに該当する場合は、前条による単位の認定を受けることができない。

(1) 授業料その他諸納入金が未納であるとき

(2) 履修登録をしていないとき

(試験等の成績評価)

第16条 試験等の成績評価は、次の基準によって評語で示される。

(1) 100点から90点まで 秀

(2) 89点から80点まで 優

(3) 79点から70点まで 良

- (4) 69 点から 60 点まで 可
(5) 59 点以下 不可 (不合格)

(受験上の注意)

第 17 条 学生は、試験を受けるに際しては、別に定める注意事項を厳守しなければならない。

(再試験等)

第 18 条 試験等で授業科目が不合格となった者は、再試験等を受けることができる。

- 2 再試験等の実施については、別に定める。
- 3 再試験等で合格した者の成績評価は、60 点 (可) とする。

(追試験等)

第 19 条 病気またはやむを得ない理由により所定の日時に受験できなかった者は、追試験等を受けることができる。

- 2 追試験等の実施については、別に定める。
- 3 追試験等の結果の成績は、一割減とする。

第 20 条 この規程の改廃は、保健医療学部教授会においてこれを行う。

附 則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

1.教育目的と3つのポリシー

1) 教育目的

幅広い教養と豊かな人間性、国際性、変化に対応できる汎用的能力などをそなえ、「人」を中心に据えた専門的知識と高度な技術、創造力、実践力、倫理性、協調性などを身につけた質の高い看護職者の育成を目的としています。

2) ディプロマ・ポリシー

本学所定の課程を修め、次の能力を修得した者に学士（看護学）の学位を授与します。

- (1) 看護の対象となる人を生活者として全人的に理解し、科学的思考に基づいて質の高い看護を実践できる力
- (2) 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力
- (3) 課題解決に向け多職種と協働できる力
- (4) 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力

ディプロマ・ポリシーに示した能力を修得するため、次に示すような具体的な能力の獲得を目指します。

DP	獲得を目指す具体的な能力	
DP 1 看護の対象となる人を生活者として全人的に理解し、科学的思考に基づいて質の高い看護を実践できる力	能力1 確かな看護実践力	1) 看護の対象となる人と人間関係を築く力 2) 看護の対象者となる人を全人的に捉える力 3) 知識をもとに根拠に基づいて臨床判断できる力 4) 臨床判断に基づいて安全安楽に看護を実施し、評価できる力 5) 看護の対象となる人を尊重し、対象者を中心に据えた看護が実践できる力 6) 意思決定を支援できる力
	能力2 コミュニティ（地域）で生活する人を支援できる力	1) 対象者を生活者として捉える力 2) 対象者が生活するコミュニティの特性を把握できる力 3) 対象者が生活する地域の資源を活用し、対象者を支援できる力
DP2 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力	能力3 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力	1) 倫理原則に基づいて考える力 2) 対象者の文化的背景を理解できる力 3) 多様な価値観を尊重できる力 4) 対象者の自己決定を尊重できる力
DP3 課題解決に向け多職種と協働できる力	能力4 課題解決に向け多職種と協働できる力	1) 看護の専門性を他者に伝えることができる力 2) 関係する他職種の役割と機能が理解できる力 3) 課題解決に向け、チームメンバー間で目的を共有できる力
DP4 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力	能力5 自己を振り返り主体的に学び続ける力	1) 社会の変化を捉える力 (1) ものごとの本質を捉えようとする姿勢 (2) 幅広く情報を捉える力 (3) ものごとを探究する力 2) 自己を理解する力 3) 自己の課題を見出す力 4) 自己の課題解決に向け主体的に行動できる力

3) カリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を修得するため、共通教育科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目群を設け、次のような方針で教育課程を編成します。

- (1) 教養を身につけ、科学的思考を育み、人間力を磨くための科目を1年次から4年次までに配し、成長に応じた学びができるようにします。
- (2) 看護の対象となる人を全人的に理解して看護を実践できる力を身につけられるようにするため、生活者としての人間を理解する科目、看護の基礎を学ぶ科目、人間の発達段階や看護を実践する場の特性に応じた看護を学ぶ科目を、段階的に配します。
- (3) 多職種と協働して看護を実践できる力を修得できるようにするため、専門職としての協働のあり方を学ぶ科目を1年次から段階的に配するとともに、日々の学びの体験の中で他者と協働する力を獲得できるように多様な学習方法を取り入れます。
- (4) 社会の変化を捉え、自律的に学び続ける力を育むため、1年次の大学での学び方を学ぶ科目に始まり、4年次の課題探究型の実習と卒業研究まで、幅広い情報の捉え方やものごとの探究の仕方について学ぶ科目を配し、多様な学習方法を取り入れ、主体的に行動したり、自ら課題を発見したりできるようにします。

4) カリキュラム・マップ

それぞれの授業科目が、どのディプロマ・ポリシーの育成を目指す科目であることを表したものをカリキュラム・マップと言います。看護学科のカリキュラム・マップを7ページから10ページに示しています。表中の◎は重点的に育成する項目を、○は育成する項目を表しています。

5) カリキュラム・ツリー

ディプロマ・ポリシーを達成するため、学年ごとにどのような科目を学ぶのかや科目間のつながりを表した図です。看護学科のカリキュラム・ツリーを11ページから示します。

2.履修に関する留意点

1) 授業の形態

授業は、その特性によって、講義、演習、実験、実習もしくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行います。演習や実習などの体験型学習を多く採用し、必要に応じて多様なメディアを利用して行います。演習及び実習は適宜、数名の小グループを編成して行います。

2) 授業への出席

各授業への出席が授業時間の3分の2（実習科目においては5分の4）に満たない場合は、再履修とします。20分未満の遅刻や早退は、原則として、3分の1回の欠席とし、20分以上の場合は1回の欠席とします。

3) 科目の履修に関する留意点

実習科目は、次の要件を満たさなければ履修することができません。

- ① 2年次の基礎看護学実習Ⅱを履修するためには、次の科目の単位を修得していること。
- ② 「看護学概論Ⅰ」「看護学概論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「コミュニケーション論」「看護技術の基礎Ⅰ」「看

護技術の基礎Ⅱ」「看護実践プロセスの基盤Ⅰ」「看護実践プロセスの基盤Ⅱ」

③ 3年次の各看護学実習科目を履修するためには、3年次前期までに開講される専門基礎科目及び専門科目の必修科目をすべて修得していること。

④ 4年次の統合看護学実習を履修するためには、3年次後期までの各看護学実習科目の単位をすべて修得していること。

4) 課程選択

3年次より「看護師課程」、「看護師・保健師課程(20名以内)」「看護師・助産師課程(女子のみ10名以内)」のいずれかを選択します。「看護師・保健師課程」選択者は保健師国家試験受験資格を、「看護師・助産師課程」選択者は助産師国家試験受験資格を看護師国家試験受験資格と同時に取得することが可能です。

「看護師・保健師課程」ならびに「看護師・助産師課程」の選択は、2年次の終わりに希望調査を行い、各課程が始まるまでに、希望者に対して筆記試験と面接を行い、それらの結果と既習得科目の成績を考慮して決定します。

※課程選択に伴う科目の履修に関する留意点

①看護師・保健師課程選択

看護師・保健師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、「保健統計(2単位)」「保健医療福祉行政論Ⅱ(政策形成過程)(1単位)」と公衆衛生看護学に関する科目群のすべての選択科目(10科目、19単位)を修得することにより、看護師及び保健師国家試験受験資格が得られます。

「公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)」「公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)」「公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)」及び「公衆衛生看護活動展開演習」「公衆衛生看護管理論」を履修するためには、3年次前期までのすべての公衆衛生看護学の科目と、後期のすべての領域実習の単位を修得しておく必要があります。また、保健師免許を取得後、申請により養護教諭二種免許状を取得するためには、共通教育科目のうち本学で必修となっている基礎教養科目群の「英会話Ⅰ(1単位)」「英会話Ⅱ(1単位)」「健康スポーツ(理論)(1単位)」、情報教養科目群の「情報機器の操作(2単位)」、選択科目のうち基礎教養科目群の「健康スポーツ(実技)(1単位)」「日本国憲法(2単位)」の合計8単位を修得しておく必要があります。

②看護師・助産師課程選択

看護師・助産師課程を選択する学生は、看護師課程の卒業要件に加え、1年次前期の「保健医療福祉行政論Ⅰ(社会保障・社会福祉の理念と制度)」と助産学に関する全ての選択科目(15科目29単位)を修得することにより、看護師及び助産師国家試験受験資格が得られます。

「助産学実習Ⅰ～Ⅳ」を履修するためには、3年次後期までのすべての科目を修得しておく必要があります。

保健医療学部看護学科 カリキュラム・マップ

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
共通教育科目	英語 I	1 前	1		30		◎		○			
	英語 II	1 後	1		30		◎		○			
	英会話 I	1 前	1		30		◎		○			
	英会話 II	1 後	1		30		◎		○			
	中国語基礎 I	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	中国語基礎 II	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	中国語会話	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語基礎 I	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語基礎 II	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	スペイン語会話	1・2・3・4 前後		1		30		◎		○		
	文学	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	哲学	1 後	2		30				○		◎	
	倫理学	1 前	2		30				○		◎	
	心理学	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	行動の科学	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	文化人類学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	音楽の世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	社会学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	日本国憲法	1・2・3・4 前後		2		30					◎	養教2種必修
	歴史学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	地理学	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	数学の世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	自然科学の基礎	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	環境化学の基礎	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	健康スポーツ (理論)	1 後	1		15						◎	(養教)
	健康スポーツ (実技)	1・2・3・4 前後		1		30					◎	養教2種必修
	スポーツ実技 I	1・2・3・4 前後		1		30				○	◎	
	スポーツ実技 II	1・2・3・4 前後		1		30				○	◎	
共生教育	共生と社会	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	人権論	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	ボランティア活動	1・2・3・4 前後		2		30		○			◎	
	生活と環境	1・2・3・4 前後		2		30		○	○		◎	
奈良・国際	奈良学	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	異文化コミュニケーション	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
	国際事情	1・2・3・4 前後		2		30			○		◎	
情報教育	情報機器の操作	1 前	2		30						◎	(養教)
	情報倫理とセキュリティ	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	データの世界	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	CGの基礎と演習	1・2・3・4 前後		2		30					◎	
	情報と分析	1 後	2		30						◎	
キャリア形成導入基礎	キャリアデザイン I	1 前		1		30					◎	
	キャリアデザイン II	1 後		1		30					◎	
	キャリアアディバロップメント I	2 前		1		30					◎	
	キャリアアディバロップメント II	2 後		1		30					◎	
	ラーニングスキルズ	1 前	1		30						◎	
	ライティングスキル	1 後	1		30						◎	
専門基礎科目	人間の理解	1 前	2		30		◎					
	人体構造機能学 II	1 後	2		30		◎					

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考		
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2						
専門基礎科目	人間の理解	発達心理学	1 前	2		30		○						
		生化学	1 後	1		15		○						
		栄養学	1 前	1		15		○						
		微生物学	1 前	1		15		○						
		免疫学	1 後	1		15		○						
	環境の理解	疫学	2 後	2		30			○				(保)	
		公衆衛生学	1 後	1		15			○					
		社会福祉学	1 前	1		15			○					
		医療福祉関係法規	1 後	1		15			○					
		保健医療福祉行政論Ⅰ (社会保障・社会福祉の理念と制度)	1 前	2		30			○				(助)	
		保健医療福祉行政論Ⅱ (政策形成過程)	4 後		1		15			○			保必修	
	保健統計	2 後		2		30			○			保必修		
	健康の理解	保健医療概論	1 前	1		15			○		○			
		病理学	1 前	1		15		○						
		疾病治療論Ⅰ (呼吸・循環・生殖器の障害)	1 後	2		30		○						
		疾病治療論Ⅱ (消化吸収・内分泌・代謝・排泄・造血機能の障害)	2 前	2		30		○						
		疾病治療論Ⅲ (脳神経・運動・感覚・精神機能の障害)	2 前	2		30		○						
		薬理学	1 後	2		30		○						
		リハビリテーション論	2 後	1		15		○						
	専門科目	看護の考え方や方法	看護学概論Ⅰ (看護の役割・機能と対象理解)	1 前	2		30		○	○				
			看護学概論Ⅱ (看護の理論と看護活動)	1 後	2		30		○	○				
看護倫理学			4 前	1		15			○	○				
コミュニケーション論			1 前	1		30		○	○					
看護技術の基礎Ⅰ (療養支援)			1 後	1		30		○	○					
看護技術の基礎Ⅱ (診療・治療支援)			2 前	1		30		○		○				
看護実践プロセスの基盤Ⅰ (情報の評価と課題発見)			2 前	2		60		○	○					
看護実践プロセスの基盤Ⅱ (課題発見から課題解決)			2 後	1		30		○	○	○				
基礎看護学実習Ⅰ			1 前	1		45		○	○					
基礎看護学実習Ⅱ			2 後	2		90		○	○	○	○	○		
地域・在宅看護学概論			2 前	2		30			○					
地域・在宅看護援助論			2 後	2		60			○					
地域・在宅看護援助論演習Ⅰ (在宅療養支援)			3 前	1		30			○					
地域・在宅看護援助論演習Ⅱ (広域支援)			3 前	1		30			○					
成人老年看護学概論			2 前	2		30		○	○					
成人老年看護援助論Ⅰ (生命維持の破綻から健康回復への支援)			2 後	2		60		○	○					
成人老年看護援助論Ⅱ (障害適応とエンドオブライフへの支援)			2 後	2		60		○	○					
成人老年看護援助論演習Ⅰ (生命維持の破綻から健康回復への支援)			3 前	2		60		○	○					
成人看護援助論演習Ⅱ (障害適応とエンドオブライフへの支援)			3 前	2		60		○	○					
小児看護学概論			2 前	2		30		○	○					
小児看護援助論			2 後	1		30		○	○					
小児看護援助論演習			3 前	1		30		○	○					
母性看護学概論			2 前	2		30		○	○					
母性看護援助論			2 後	1		30		○	○					
母性看護援助論演習			3 前	1		30		○	○					
精神看護学概論			2 前	2		30		○	○	○				
精神看護援助論			2 後	1		30		○	○	○				
精神看護援助論演習	3 前	1		30		○	○	○						
地域・在宅看護学実習	3 後	2		90		○	○	○						

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
看護の考え方の方法	成人老年看護学実習Ⅰ	3後	3		135		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅱ	3後	3		135		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅲ	3後	2		90		◎	○	○			
	成人老年看護学実習Ⅳ	3後	2		90		◎	○	○			
	小児看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	母性看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	精神看護学実習	3後	2		90		◎	○	○			
	ターミナルケア論	4前		1	15		○		◎	○		
	感染看護	4前		1	15		◎			○		
	痛みの基礎と応用	4前		1	15		◎		○			
看護の統合の実践	看護管理論	4通	1		15				○	◎	○	
	看護マネジメント論	4後		1	15				○	◎	○	
	チーム連携論	4前	1		15					◎	○	
	チーム連携論演習	4後		1	30					◎	○	
	統合看護論	4後	2		30		○	○	○	◎	○	
	統合看護実習	4前	2		90		○	○	○	○	◎	
	国際看護論	4前	1		15				○	◎		
	国際看護論演習	4後		1	30				○	◎		
	地域包括ケア論	4後		1	30			◎		○		
	家族看護学	4後		1	15			◎	○	○		
	災害看護学	4後		1	15			○		◎		
	看護教育学	4前		1	15					◎	○	
	カウンセリング論	4後		1	15		○		◎			
	看護研究	4前		1	30						◎	
卒業研究	4通		1	30						◎		
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前		2	30			◎		○		保必修
	公衆衛生看護学方法論Ⅰ(健康増進能力を高める支援と評価)	3前		2	30			◎		○		保
	公衆衛生看護学方法論Ⅱ(健康課題の発見と事業化)	3前		2	30			◎		○		保
	公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)	2後		3	45			◎	○	○		保必修
	公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)	2後		2	30		○	◎		○		保必修
	公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2前		2	30		○	◎		○		(助)(保)
	公衆衛生看護学活動展開演習	4前		2	60			◎		○		保
	公衆衛生看護学管理論	4後		1	15			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)	4通		3	135			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)	4通		1	45			◎		○		保
	公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)	4通		1	45			◎		○		保
助産学	助産学概論	3前		2	30			○	○	◎		助必修
	リプロダクティブヘルス学	3前		2	30		◎	○	○			助必修
	周産期医学	3前		1	15		◎					助必修
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	3後		2	30		◎	○	○			助
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	3後		2	30		◎		○			助
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・新生児・乳幼児期)	3後		2	30		◎	○	○			助
	助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク周産期)	4前		2	30		◎		○			助
	助産診断・技術学演習Ⅰ(分娩期)	3後		1	30		◎		○			助
	助産診断・技術学演習Ⅱ(妊娠・産褥・新生児期)	4前		1	30		◎	○	○			助
	助産学実習Ⅰ	4通		2	90		◎	○	○			助
	助産学実習Ⅱ	4通		4	180		◎		○			助
	助産学実習Ⅲ	4通		4	180		◎		○			助

	授業科目の名称	配当年次	単位数		時間数		DP1		DP2 能力3	DP3 能力4	DP4 能力5	備考
			必修	選択	必修	選択	能力1	能力2				
助産学	助産学実習Ⅳ	4通		1		45			○	◎	○	助
	地域母子保健	4通		1		15		◎		○		助
	助産管理論	4通		2		30				◎	○	助

備考

保：保健師課程選択者のみが履修できる科目

保必修：全学生が選択できる科目で、保健師課程の学生は必修

助：助産師課程の学生のみが選択できる科目

助必修：全学生が選択できる科目、助産師課程の学生は必修

養教2種必修：養護教諭2種免許申請者は必修

(保)(助)：必修科目で、かつ、保健師・助産師国家試験受験資格に係る科目

(養教)：必修科目で、かつ、養護教諭2種免許申請に必要な科目

※保健師課程、助産師課程の選抜については別途説明があります。

看護学科(看護師課程) カリキュラムツリー

- DP1: 看護の対象となる人々を生活者として全人的に理解し、科学的思考に基づいて正しい看護を実践できる力
- DP2: 人々の多様性を理解し、倫理原則に基づいて判断できる力
- DP3: 臨床解決に向けて多職種と協働できる力
- DP4: 社会の変化を捉え自発的に学び続ける力

4 年次	総合看護実習 卒業研究	総合看護論	総合看護実習 卒業研究	総合看護論
	地域包括ケア論 ターミナルケア論	家族看護論 カンセリング論	看護マナジメント論 看護管理論	国際看護論 看護倫理学
3 年次	リプロダクティブヘルルス学 助産学概論	地域・在宅看護助産論Ⅰ	成人老年看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	母性看護学実習 小児看護学実習
	基礎看護学実習Ⅱ 看護実践プロセスの基礎Ⅱ	地域・在宅看護助産論Ⅱ	成人老年看護助産論Ⅱ	母性看護助産論Ⅱ 小児看護助産論Ⅱ
2 年次	看護実践プロセスの基礎Ⅰ(情報の評価と課題発見)	地域・在宅看護助産論Ⅰ	成人老年看護助産論Ⅰ	母性看護助産論Ⅰ 小児看護助産論Ⅰ
	看護技術の基礎Ⅱ(診療・治療支援)	基礎看護学実習Ⅰ 看護実践プロセスの基礎Ⅰ	成人老年看護助産論Ⅰ	母性看護助産論Ⅰ 小児看護助産論Ⅰ
1 年次	看護学概論Ⅱ	看護技術の基礎Ⅰ(療養支援)	人体精選機能学Ⅱ	免疫学 疫病学 栄養学 発病学 疾病治療論Ⅰ
	看護学概論Ⅰ	看護技術の基礎Ⅰ(療養支援)	基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅰ
共通教育科目	スポーツ実技Ⅰ 地理学 日本国憲法 社会学	スポーツ実技Ⅱ 人権論 数学の世界 共生と社会	健康スポーツ(実技) 生活と環境 奈良学 文学	CGの基礎と演習 キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅠ
共通教育科目	英語Ⅱ 英語Ⅰ	英語Ⅱ 英語Ⅰ	英会話Ⅱ 英会話Ⅰ	キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅠ
共通教育科目	倫理学 哲学	倫理学 哲学	ライティングスキル 英会話Ⅱ	環境化学の基礎 キャリアデザインⅠ
共通教育科目	中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ	中国語基礎Ⅰ 中国語基礎Ⅱ	中国語会話 中国語会話	自然科学の基礎 環境化学の基礎
共通教育科目	情報倫理とセキュリティ データベース	情報倫理とセキュリティ データベース	データベース データベース	情報と分析 情報機器の操作
共通教育科目	社会学 共生と社会	社会学 共生と社会	社会学 健康スポーツ(理論)	キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅠ

看護の総合と実践
※看護学の広がり deepening により学びを深める
※看護学の広がり deepening により学びを深める

看護の考え方式
発達段階等に応じた看護
地域や在宅での看護
看護の基礎
(網掛けは実習科目)

専門基礎科目
健康の理解
健康の理解
健康の理解
人間理解

共通教育科目
斜体は選択科目

3.看護学実習の概要

看護学実習は、既習の知識と技術を基に学習する科目で、看護学において実践学習の中心となる科目です。講義で学習した理論と学内における演習を統合し、臨地で実際に対象者を通して看護実践を行い、その経験を通して看護を認識し、自己の看護に対する考えの発見や自覚をしながら、看護観を深めていきます。看護の対象者は、多様な健康レベルにあり個々のニーズをもつ個人・家族・集団です。看護学実習においては、その対象者を生活者の視点で把握し、病院、福祉施設、在宅、地域等それぞれの場における看護の役割や機能を理解し、対象者の個別性に合わせた看護実践を展開する基礎的な能力を習得することを目的とします。

1) 看護学実習の概要と開講時期

看護学の専門領域ごとに以下のとおり1年次から4年次まで段階的に実習を開講します。

看護学実習に関する全体的な内容は実習要綱に示し、1年次から継続して活用します。また、各看護学実習では、手引きである実習要項を用いて実習内容を示します。

1年次：基礎看護学実習Ⅰを履修し、臨床現場を経験することで、学習のモチベーションを高め、看護の対象や役割の理解を深めます。

2年次：基礎看護学実習Ⅱを履修し、臨地で対象者を受け持ち、看護の思考過程を踏みながら対象に応じた看護を実践する基盤能力の習得を目指します。

3年次：各看護学領域の実習を履修し、健康レベル、ライフステージ等、対象の特性に応じた看護を展開する能力を養います。

4年次：統合看護学実習を履修し、専門基礎、専門分野の学習を統合します。

保健師または助産師課程選択の学生は公衆衛生看護学実習または助産学実習も選択します。

2) 看護学実習科目と開講時期

必修／選択	実習科目	開講時期	単位
必修	基礎看護学実習Ⅰ	1年次前期	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2年次後期	2
	地域・在宅看護学実習	3年次後期	2
	成人老年看護学実習Ⅰ～Ⅳ		10
	小児看護学実習		2
	母性看護学実習		2
	精神看護学実習		2
	統合看護実習	4年次前期	2
選択	公衆衛生看護学実習Ⅰ～Ⅲ	4年次通年	5
	助産学実習Ⅰ～Ⅳ		11

3) 看護学実習の評価

看護学実習の評価は、実習終了後に、臨地実習指導者の意見を参考にしながら、各科目の担当教員が責任をもって行います。各科目の実習目標の到達度、実習態度などに関する評価項目を総合して評価します。評価は、実習要綱に示すとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

※出席が5分の4に満たない場合には評価は受けられません。再履修となります。

4) 実習中の事故防止と発生時の対応

保健医療チームの一員としての自覚を持ち、報告・連絡・相談に努め、指導者の助言・助力を受けることが重要です。事故発生時は、速やかに臨地実習指導者および担当教員に報告し、指示に従って対応します。
※入学時には、事故発生時の補償のために、学生全員が保険（総合補償制度 will 保険）に加入します。

5) 感染防止

看護学実習に際しては、学生の皆さん自身の健康を守るためと、学生の皆さんを介して患者さん等への感染を防止するため、十分な免疫を獲得して実習に臨む必要があります。

(1) 必要な免疫

実習までに次の表に示した「十分な免疫あり」の基準を満たす必要があります。免疫獲得状況が基準に満たない場合は、ワクチン接種が必要となります。体質等によりワクチンの接種ができない場合は、学生支援センターに申し出てください。

(2) 抗体価検査等

免疫の獲得状況の確認等のために、在学中に次の検査を行います。

疾患名	検査方法	十分な免疫あり	十分な免疫なし(基準に満たない)	
		(+)	(±)~(+)	(-)
①麻疹	EIA法-IgG	16.0以上	2.0~15.9	2.0未満
②風疹	HI法	32倍以上	8倍、16倍	8倍未満
	EIA法-IgG	8.0以上	2.0~7.9	2.0未満
③水痘	EIA法-IgG	4.0以上	2.0~3.9	2.0未満
④流行性耳下腺炎	EIA法-IgG	4.0以上	2.0~3.9	2.0未満
⑤B型肝炎		10.0mlU以上		

①麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎の抗体価検査*（1年次）

②結核感染に関する検査 胸部X線検査（毎年）
Tスポット*（1年次）

③B型肝炎抗体検査*（1年次と3年次）

*の検査は血液検査です。

(3) ワクチン接種（予防接種）について

①入学前に接種したワクチンについて

入学時の健康調査票と一緒に、接種証明（母子健康手帳の予防接種記録のコピーなど）を学生支援センターに提出してください。

②上記（1）に示した①～④の免疫獲得状況が基準に満たないもの

追加のワクチン接種が必要です。

かかりつけ医など近くの医療機関でワクチン接種を受け、接種証明を学生支援センターに提出してください。（追加接種は、原則、基礎看護学実習Ⅰが始まる3ヶ月前までに済ませてください。）

ただし、同じワクチンを入学前に2回接種している場合には追加接種の必要はありません。2回分の接種証明を入学時に学生支援センターに提出してください。

③ B型肝炎ワクチンについて

抗体が陰性（－）の場合はワクチン接種を受けてください。

B型肝炎ワクチンは3回の接種が必要で、3回目の接種が終了するまでに約7ヶ月かかります。計画的に接種してください。

④インフルエンザ ワクチン

基礎看護学実習Ⅱ、3年次の領域実習を履修する学生は、その年のインフルエンザワクチンの接種が開始されたら、速やかに接種を受けてください。

⑤新型コロナウイルスワクチン

任意接種ですが、感染リスクの高い医療機関での実習であることを踏まえ、医療職に準じて接種を受けるようにしてください。

授業科目表

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数	
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
共通教育科目	基礎教養	英語Ⅰ	1		1前	●									30	25単位以上 (必修15単位を含む)
		英語Ⅱ	1		1後		●								30	
		英会話Ⅰ	1		1前	●									30	
		英会話Ⅱ	1		1後		●								30	
		中国語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		中国語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		中国語会話		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語基礎Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語基礎Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		スペイン語会話		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		文学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		哲学	2		1後		●								30	
		倫理学	2		1前	●									30	
		心理学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		行動の科学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		文化人類学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		音楽の世界		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		社会学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		日本国憲法		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		歴史学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		地理学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		数学の世界		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		自然科学の基礎		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		環境化学の基礎		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	健康スポーツ(理論)	1		1後		●								15		
	健康スポーツ(実技)		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	スポーツ実技Ⅰ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	スポーツ実技Ⅱ		1	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
	共生教養	共生と社会		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		人権論		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		ボランティア活動		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		生活と環境		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	奈良・国際	奈良学		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		異文化コミュニケーション		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
		国際事情		2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30	
	情報教養	情報機器の操作	2		1前	●									30	
情報倫理とセキュリティ			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
データの世界			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
CGの基礎と演習			2	1・2・3・4前後	○	○	○	○	○	○	○	○	○	30		
情報と分析		2		1後		●								30		
キャリア形成	キャリアデザインⅠ		1	1前	○									30		
	キャリアデザインⅡ		1	1後		○								30		
	キャリアディベロップメントⅠ		1	2前			○							30		
	キャリアディベロップメントⅡ		1	2後				○						30		
導入基礎	ラーニングスキルズ	1		1前	●									30		
	ライティングスキル	1		1後		●								30		
		小計(46科目)	15	57												

※「中国語基礎Ⅱ」を履修するためには「中国語基礎Ⅰ」を修得していることが、「スペイン語基礎Ⅱ」を履修するためには「スペイン語基礎Ⅰ」を修得していることが、「キャリアディベロップメントⅡ」を履修するためには「キャリアデザインⅡ」を修得していることが必要です。

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数			
			必修	選択		1年		2年		3年		4年						
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
専門基礎科目	人間の理解	人体構造機能学Ⅰ	2		1前	●									30	107 単位以上 (専門基礎科目 必修 28 単位 + 専門科目 必修 71 単位 + 選択科目 8 単位以上)		
		人体構造機能学Ⅱ	2		1後		●								30			
		発達心理学	2		1前	●											30	
		生化学	1		1後		●										15	
		栄養学	1		1前	●											15	
		微生物学	1		1前	●											15	
		免疫学	1		1後		●										15	
	環境の理解	疫学	2		2後				●								30	
		公衆衛生学	1		1後		●										15	
		社会福祉学	1		1前	●											15	
		医療福祉関係法規	1		1後		●										15	
		保健医療福祉行政論Ⅰ(社会保障・社会福祉の理念と制度)	2		1前	●											30	
		保健医療福祉行政論Ⅱ(政策形成過程)	1		4後									○			15	
		保健統計	2		2後				○								30	
	健康の理解	保健医療概論	1		1前	●											15	
		病理学	1		1前	●											15	
		疾病治療論Ⅰ(呼吸・循環・生殖器の障害)	2		1後		●										30	
		疾病治療論Ⅱ(消化吸収・内分泌・代謝・排泄・造血機能の障害)	2		2前			●									30	
		疾病治療論Ⅲ(脳神経・運動・感覚・精神機能の障害)	2		2前			●									30	
		薬理学	2		1後		●										30	
		リハビリテーション論	1		2後				●								30	
	小計(21科目)	28	3															
	専門科目	看護の考え方と方法	看護学概論Ⅰ(看護の役割・機能と対象理解)	2		1前	●										30	
			看護学概論Ⅱ(看護の理論と看護活動)	2		1後		●									30	
			看護倫理学	1		4前							●					15
			コミュニケーション論	1		1前	●											30
			看護技術の基礎Ⅰ(療養支援)	1		1後		●										30
			看護技術の基礎Ⅱ(診療・治療支援)	1		2前			●									30
看護実践プロセスの基盤Ⅰ(情報の評価と課題発見)			2		2前			●								30		
看護実践プロセスの基盤Ⅱ(課題発見から課題解決)			1		2後				●							30		
基礎看護学実習Ⅰ			1		1前	●										45		
基礎看護学実習Ⅱ			2		2後				●							90		
地域・在宅看護学概論			2		2前			●								30		
地域・在宅看護援助論			2		2後				●							60		
地域・在宅看護援助論演習Ⅰ(在宅療養支援)			1		3前					●						30		
地域・在宅看護援助論演習Ⅱ(広域支援)			1		3前					●						30		
成人老年看護学概論			2		2前			●								30		
成人老年看護援助論Ⅰ(生命維持の破綻から健康回復への支援)			2		2後				●							60		
成人老年看護援助論Ⅱ(障害適応とエンドオブライフへの支援)			2		2後				●							60		
成人老年看護援助論演習Ⅰ(生命維持の破綻から健康回復への支援)			2		3前					●						60		
成人老年看護援助論演習Ⅱ(障害適応とエンドオブライフへの支援)			2		3前					●						60		
小児看護学概論			2		2前			●								30		
小児看護援助論			1		2後				●							30		
小児看護援助論演習			1		3前					●						30		
母性看護学概論			2		2前			●								30		
母性看護援助論	1		2後				●							30				
母性看護援助論演習	1		3前					●						30				

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数	
						1年		2年		3年		4年				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門科目	看護の考え方と方法	精神看護学概論	2		2前			●							30	107 単位以上 (専門基礎科目 必修 28 単位 + 専門科目 必修 71 単位 + 選択科目 8 単位以上)
		精神看護援助論	1		2後				●						30	
		精神看護援助論演習	1		3前					●					30	
		地域・在宅看護学実習	2		3後						●				90	
		成人老年看護学実習Ⅰ	3		3後						●				135	
		成人老年看護学実習Ⅱ	3		3後						●				135	
		成人老年看護学実習Ⅲ	2		3後						●				90	
		成人老年看護学実習Ⅳ	2		3後						●				90	
		小児看護学実習	2		3後						●				90	
		母性看護学実習	2		3後						●				90	
		精神看護学実習	2		3後						●				90	
		ターミナルケア論		1	4前								○		15	
		感染看護		1	4前								○		15	
		痛みの基礎と応用		1	4前								○		15	
	看護の統合と実践	看護管理論	1		4通							●	●	15		
		看護マネジメント論		1	4後								○	15		
		チーム連携論	1		4前							●		15		
		チーム連携論演習		1	4後								○	30		
		統合看護論	2		4後								●	30		
		統合看護実習	2		4前						●			90		
		国際看護論	1		4前							●		15		
		国際看護論演習		1	4後								○	30		
		地域包括ケア論		1	4後								○	30		
		家族看護学		1	4後								○	15		
		災害看護学		1	4後								○	15		
		看護教育学		1	4前							○		15		
		カウンセリング論		1	4後								○	15		
		看護研究	1		4前							●		30		
	卒業研究	1		4通							●	●	30			
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論		2	2前			○						30		
		公衆衛生看護学方法論Ⅰ(健康増進能力を高める支援と評価)	2		3前					○				30		
		公衆衛生看護学方法論Ⅱ(健康課題の発見と事業化)	2		3前						○			30		
		公衆衛生看護学Ⅰ(地域活動)		3	2後				○					30		
		公衆衛生看護学Ⅱ(学校保健)		2	2後					○				30		
		公衆衛生看護学Ⅲ(産業保健)	2		2前			●						30		
		公衆衛生看護学活動展開演習		2	4前							○		60		
公衆衛生看護学管理論			1	4後								○	15			
公衆衛生看護学実習Ⅰ(地域活動)			3	4通							○	○	135			
公衆衛生看護学実習Ⅱ(学校保健)			1	4通							○	○	45			
公衆衛生看護学実習Ⅲ(産業保健)			1	4通							○	○	45			
助産学		助産学概論		2	3前					○				30		
	リプロダクティブヘルス学		2	3前					○				30			
	周産期医学		1	3前					○				15			
	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・新生児・乳幼児期)		2	3後						○			30			
	助産診断・技術学Ⅳ(ハイリスク周産期)		2	4前							○		30			

科目区分	科目群	授業科目	単位数		配当年次	配当年次 ●・・・必修 ○・・・選択								時間数	卒業に必要な単位数
			必修	選択		1年		2年		3年		4年			
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
専門科目	助産学	助産診断・技術学演習Ⅰ（分娩期）		1	3 後						○			30	107 単位以上 （専門基礎科目 必修 28 単位 + 専門科目 必修 71 単位 + 選択科目 8 単位以上）
		助産診断・技術学演習Ⅱ（妊娠・産褥・新生児期）		1	4 前							○		30	
		助産学実習Ⅰ		2	4 通							○	○	90	
		助産学実習Ⅱ		4	4 通							○	○	180	
		助産学実習Ⅲ		4	4 通							○	○	180	
		助産学実習Ⅳ		1	4 通							○	○	45	
		地域母子保健		1	4 通							○	○	15	
		助産管理論		2	4 通							○	○	30	
小計（80科目）		71	59												
合計（147科目）132単位以上			114	119											132

※公衆衛生看護学、助産学の選択科目は、それぞれの課程選択者が履修できます。